

CONTENTS ◆おくさわ風景祭 +晩秋のつどいレポート ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢新春地区祭り報告
◆活動報告 ◆会からのお知らせ

おくさわ風景祭 + 晩秋のつどい レポート

平成16年3月に奥沢2丁目の一部を対象に、世田谷区で最初の「界わい宣言」が締結され、また奥沢には「大ケヤキのある散歩道」、「奥沢海軍村の風景」という二つのせたがや地域風景資産があります。

世田谷風景づくり条例に基づく次のステップとして、今年度は「界わい形成地区」を指定をする取り組みが、世田谷区都市デザイン課、奥沢交和会と土とみどりを守る会の連携により進められています。

その一環として、11月18日に奥沢公園で「風景祭」が開催されました。風景づくりについて、より多くの住民の方に主旨を理解いただくためのイベントで、天候にも恵まれ、当初予想を大きく上回る500人以上の参加者があり、大賑わいでした。

奥沢の歴史や風景資産のなぞときコーナー、理想の家をそれぞれの思いで描くコーナー、映像やパネル展示のほか、模擬店ある楽しいお祭りとなりました。

11月24日には、シェア奥沢にて恒例の「晩秋のつどい」が開催されました。第1部のコンサートは、劇団四季などで活躍されている中澤孝子さんのソプラノ、植木園子さんのピアノで、エビータやキャッツなどの有名なメロディーをご披露いただき、さすが、プロの素晴らしい歌唱力に酔いしれました。第2部は、「奥沢ガーデンタウン構想」を作りました、というテーマで展開しました。これは世田谷区都市デザイン課が昨年開催した意見交換会のひとつのテーブルから出たアイデアで、公園の少ない奥沢では、新たに公園を作ることなく、宅地内の庭を活かすことで、いわば街全体を公園にしようというアイデアです。意見交換では、緑の維持管理に関わる意見や提案が出され、土とみどりを守る会として取り組むべき課題も見えてきました。会としては次の目標として取り組んでいく所存です。(堀内)



おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方や、新しく移ってきた方など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただいています。)

「九品仏池の歴史資料を探して(2)」

奥沢四丁目 野口 英男

2-1 「湿地であった九品仏川の周辺を客土して畑や宅地を作った」説(続き)

「地図で見る世田谷」[資料③]の44ページに3千分1地形図「41号ノ4等々力」(昭和13年8月測図・日本地形社発行)があり、地図の説明文の中に、「寺の北に接する九品仏池は、昭和7年に着手されたこの辺りの耕地整理事業の際、埋め立て用土の堀削跡を利用して造られた。本図では地元の人々の出資による貸しポート屋の所在が確認できる。」と記述されている。また、九品仏池の写真があり、『「土・まち・みどり」通信第37号(平成21年11月27日発行)より』との注釈が付いている。105ページの「大日本職業別明細図 世田谷区」(昭和10年12月東京交通社発行)があり、九品仏公園池ボートクラブを確認することができる。

世田谷区立郷土資料館発行の図録「世田谷の土地—絵図と図面を読み解く—」[資料⑤]では、114ページに「玉川全圃耕地整理事業」の「等々力北区」の図面があり次の説明文がある。「第一工区の仮換地図である。池には中の島が設けられ、大田区の洗足池にならってボート営業を行っていた。」と記されている。また、九品仏池の写真が掲載されている。

世田谷区が平成4年に発行した「せたがや百年史[上巻]」[資料⑥]の142ページに「等々力の九品仏池」と題するコラムがあり、池は「昭和の初めに起った“ゴミ公害”対策の副産物として造られた」と記述されている。東京府が等々力の空き地(現・等々力6丁目付近)を臨時のゴミ捨場に選んだ。運び込まれたゴミの悪臭やゴミを焼く煙などの問題が発生し、地元住民はゴミ捨場の撤去運動を行った。この結果ゴミ捨てはひとまず中止となった。「ひとまず」という但書が気に入らなかった住民たちは、この空き地を掘って大きな池にしてしまうことを考えついた。掘り出した土は、当時実施中だった「玉川村耕地整理事業」の埋立土に使えるとし、直ぐに実行に移した。池は中央に約630㎡の島を置いた13,000㎡ほどのもので、3m平均の深さに掘り下げた。池はできあがり、地元の人々の出資で貸しポート屋も釣堀も作られたと書かれている。

2-2 「東急東横線自由が丘駅の高架化するための土盛りをするために池を掘った」説

JTBパブリッシングが2008年に発行した「東急の駅 今昔・昭和の面影」[資料⑦]の48ページに自由が丘駅の記述がある。「駅のある場所は、呑川への支流の九品仏川があり、谷の底となっていて、かつて周囲は大根畑であった。開通当時の駅名である九品仏は、南西にある九品仏(浄真寺)によるものである。

昭和4年(1929)に目蒲電鉄の大井町線が二子玉川から東進して立体交差する必要が生じたので、東横線が盛土によりオーバークロスすることとなった。」とある。

1972年に東京急行電鉄が発行した「東京急行50年史」[資

料⑧]では119ページから始まる「大井町線の建設」に次の様な記載がある。

大正12年11月1日に目蒲線を全通させた目黒蒲田電鉄は、いよいよ大井町線の建設に取りかかることとなった。折から東京横浜電鉄では、東横線の一部として丸子多摩川～神奈川間を開業し、さらに丸子多摩川～渋谷間の建設に着手しているときであった。(中略)東京横浜電鉄が渋谷～丸子多摩川間を建設中のため、将来両社が合併するという前提で、この大井町線の着工を遅らせ、土工定規・建築定規・車両定規および橋梁の工事方法を東京横浜電鉄に合わせた。

また、目黒蒲田電鉄は、東横線との交差について東京横浜電鉄と協定を結んだ。この協定内容には、東横線九品仏駅(現自由が丘駅)付近を高架にして、その下に目蒲線支線である大岡山～二子玉川間の路線を敷設すること、東横線九品仏駅を両線の連絡駅とすること、駅名変更等の内容であった。

「昭和2年8月に開通していた東横線は、当時、九品仏駅に向って上下線とも下り勾配であったが、これを二子玉川線(現大井町線)のために5.79メートル高上した。高上による勾配変更区間は延長520メートルで、他の工事に先がけて、昭和4年4月1日に竣工した。同年10月22日九品仏駅は自由ヶ丘駅と改称された。」とある。

2-3 「奥沢物語」[資料⑨]の69ページに「東横線は九品仏(現自由が丘)駅に向って下りの勾配であるのを、これを土盛りして、最高5.79m高上げて、約520mの土堤を築かなければならない。この工事に必要な大量の土砂は、先ず、九品仏川、呑川の川底を掘り下げて確保した。この両川とも、以前は兩岸とほぼ同じ面まで流れた底の浅い川であった。土砂はそれでも不足した。その分を東横線代官山のトンネル掘削工事が出た残土を持ってきて充てた。所が、それでも不足を生じた。その不足分は、土地を掘り起こして確保した。その場所は、目蒲線が東横線と並行して走る辺りから、環八の際(いわゆる大踏切)(現奥沢4丁目35、玉川田園調布2丁目3,4)にかけて、目蒲線の東側に大きな地溝(空堀)が掘られた。長さ南北150m、幅東西10m、深さは南に行くにつれて徐々に深まり、環八に接する点で最深8mにもその達した。この大壕の土も最後の仕上げに使用されたと思う。」とある。

「耕地整理完成記念誌 郷土開発」[資料④]によると、九品仏池の掘さく工事は昭和7年9月からで、立体交差の工事は、3年半近く前の昭和4年4月に竣工している。このことから、高架化のために池が掘られたとする説は可能性が低いと思われる。

3.九品仏池の消滅

「せたがや百年史[上巻]」[資料⑥]142ページのコラムで「やがて土地は東急に売却され、昭和30年、東急文化会館の建設で地下を掘り下げた土がここに運ばれ、池は埋め立てられた。」と記されている。

「地図で見る世田谷」[資料③]の44ページでも同様な記述がある。

4.資料の所在について

資料①は、土とみどりを守る会のホームページ([URL://tsuchimidori.net/](http://tsuchimidori.net/))の「ニューズレター」で閲覧可能。②は世田谷区民会館内の区政情報センターと世田谷区立郷土資料館で販売されている。④は区政情報センターで閲覧可能。③⑤⑥⑦⑧⑨は世田谷区の区立立図書館が所蔵している

「戦前から戦中の奥沢の思い出」 奥沢二丁目 北川典子

私は昭和九年奥沢三丁目生まれ二歳頃二丁目に移りました。先日参加した「まちあるき」はかねがね気になっていた奥沢一帯の地形を地図と解説を伺いながら自分の足で確認出来、幼い頃の思い出も湧き出し大変有意義な町歩きとなりました。

奥沢やその周辺が昭和の初め頃に計画的に作られた町であることは知っていましたが、それ以前はどんな風景であったかを想像するのは私の楽しみになっています。直角に区画された奥沢の町ですが奥沢駅前から東南に斜めに伸び下って上っている一本の道はいかにも目的のある道という感じです。その道を横切って右側坂上に私の父方、左側に母方の親戚の家がありました。両家には従妹たちがいたのでよく遊びに行きました。斜めの道を横切るとき駅から下って又上った先がどうなっているか長い間気になりつつ過ぎていましてある時、五歳頃でしょうか祖母に連れられ従妹たちと川原で摘み草をした記憶が蘇りました。斜め道の上った向こうは呑川の川原へと下っていたことです。当時の川原は広く土手も緩やかで摘み草はのどかで楽しい思い出となっています。

奥沢駅とその周辺は戦後まで奥沢町の中心でしたから生活品はすべて駅の周辺で求めていました。奥沢市場の魚屋さんは毎日注文取りにきていましたし御用聞きの人も来ました。お豆腐屋さんのラップも聞こえ、牛乳は早朝に配達されました。奥沢駅から今の自由道を北方向に少し行くと奥沢幼稚園があります。昭和十四年に入園し、当時は一年制でしたので十五年に卒園、八幡国民学校に入学しました。学校の帰りに園の前を通りかかると懐かしくなり何度か立ち寄り、つい遊具で遊び園にご迷惑を掛けたのではないかと考えています。このように八幡国民学校に入学してからは長い通学路を遊び遊び帰ったのが懐かしい思い出となっています。家から学校まで坂は一つもありませんので奥沢の狭い大地のほぼ東端から西端まで歩いて通っていたこととなります。昭和十六年、第二次大戦が始まるまで町の暮らしはのんびりしていて大森海岸での潮干狩りや上野動物園での写真が残っています。父が日曜日にはテニスをしていたのでいつもコートまでついて行きました。自由が丘と緑ヶ丘の間の大井町線のガードをくぐり九品仏川(今は緑道)の木の橋を渡って少し先に父の会社の野球場とテニスコートがありました。今、野球場は山田電機にテニスコートはマンションと目黒区の緑ヶ丘文化会館になっています。この九品仏川沿いは当時、護岸はなく雨が降るとしばしば川が溢れました。川沿いに歩けるのは目黒区側のある部分でそれでも危ないので歩いた記憶は

ありません。緑ヶ丘駅前も雨になると川の水が溢れ橋の上を覆いました。この駅前には店などありませんでしたが紙芝居屋さんが来ました。拍子木を鳴らして小父さんが来ると子供たちは坂を駆け下りて飴を買いそれを舐めながら紙芝居を楽しみました。

昭和十六年十二月に第二次大戦が始まり翌年二月にシンガポール陥落を祝うちょうちん行列がありました。奥沢駅から銀座通りに向けて提灯を下げた列がぞろぞろと歩き、終わって子供たちはゴムボールを一個貰いました。この頃から物資が不足してきたようでボールは子供たちへの国からの最後の贈り物となりました。その前年、政府は隣組制度を作り、回覧板を発案し、トントントンカラリと隣組の歌も放送していました。自由な市民生活が何事も隣近所と歩調を合わせなければならなくなり母は嘆いていました。千人針や慰問袋作りなど銃後の守りが強調され、私も諏訪山通りで千人針を手にした小母さんの白い布に赤糸の結び目を刺したのを憶えています。子供達も銃後の少国民ということで「欲しがりません勝つまでは」という標語を唱えさせられました。実際、町の店先から物がどんどん消えて行き、或る時、お菓子屋の店先の何も入っていないガラスの菓子ケースを眺めているとお店の小母さんがバターボールをくるむ紙を何枚か呉れました。紙の模様と蠟紙の匂いがバターボールを舐めた気持ちにさせてくれたものです。物が不足してきて子供たちは遊びの天才らしく、当時砂交じりだった校庭が簡易舗装になったこともあり休み時間には女の子たちでいろんな遊びをしました。ゴム縄飛び、歌を歌いながらの縄跳びまわしなど校庭での遊びに夢中でした。八幡様(今は奥沢神社)の境内でも遊びました。当時はまだ樹木が低くて境内は明るく子供には広いところでしたからハンカチ落とし、かごめかごめなどの遊びができました。当時の八幡様は戦勝祈願をしたり、出征する人の武運長久を祈り、奥沢駅までお見送りする身近なお社でした。この頃でしょうか英霊を駅でお迎えすることがあり、クラスに英霊が帰ってくるからと奥沢駅や九品仏駅へ先生に引率されて行き、遺骨を持った人を先頭に列をつくり級友の自宅まで歩きました。

昭和十九年になると敵機が都市を襲う事態に備えるため、防空頭巾を持って登校し、灯火管制で町も家も暗い夜となります。街角には防火用水が置かれ、戦争が身近に迫っていたのです。夏休み前のある日、私は教壇の先生のそばに行き「私は縁故疎開です」と言っていました。自分ではその意味が分からなかったのですが先生に伝えるように母に言われたのでしよう。その年の六月に政府は都市の国民学校の児童を予想される空襲から守るための学童集団疎開という法案を決定し、三年生から六年生の児童を対象としましたが、地方の親戚などに引き受けてもらえる児童は縁故疎開もできたのです。父が転勤で満洲に居たので母は二年生の弟と私を「縁故疎開」に決め、このことを私は先生に伝えていたのでしょうか。子供には理解できない激動の中、大人たちの言われるままに母の実家のある和歌山へと終戦一年前の奥沢を離れました。

新春奥沢地区祭り報告

今年の地区祭りは奥沢中学校で実施された。目の前には車が駐車していて、校庭を見渡せなかった。その為か中学校で開催されたにしてはややお客様が少なかったように感じられた。展示スペース前の人通りが少なく、いつものように呼び込めなかった。

それでも 100 鉢以上のチェリーセージ苗やいくつかの種を配布した。

始まって間もなく区長さんがブースに顔をだしていただき、海軍村についていくつかの質問をされた。ちょうど地図などの資料を机上に並べていたので、それを示して説明をした。いつになく関心を示され、長い時間逗留された。

また、今年は大型モニター画面を用意し、会長が自転車で撮影して廻った奥沢の街並み・開かれた庭の動画を上映した。文化祭の時とは違い説明を加えてある。

一方、背後ではいつものように温かいハーブティを無料で提供した。
(赤松)



(区長に説明する赤松理事)

活動報告

●既に前号でもお伝えしていますが、世田谷区都市デザイン課が、当地域で「界わい形成地区」指定を目指した活動を昨年から展開しており、奥沢交和会と当会が協力して当たっています。今年度は、出来るだけ多くの地域の皆様に「奥沢の風景」について、理解を深めて頂くべく、風景祭(11月18日(日))が一丁目にある奥沢公園で開催されました。このイベントでは、「なぞとき」(奥沢の事が学べるクイズ、子供が多く参加)、「ペイント」(理想の家を描こう)、「フード」(経験豊富な交和会の協力)に、目標100名を遥かに超える500人の参加がありました。「風景」というやや分かり難いテーマに、多くの住民の方が関心を持っていることに、心強く感じました。都市デザイン課、奥沢交和会の皆様に感謝します。

●今年も奥沢交和会、奥沢小学校と土みどりを守る会の協働で、奥小周辺を3回、海軍村・大ケヤキ道を2回、九品仏川緑道を2回落ち葉掃きを実施しました。今回は、12月に入ってからの落ち葉掃きが多くなったこと、また夏が暑かったためか、落ち葉が少なかったようです。来年は日程の変更を検討した方が良いと思います。

会からのお知らせ

●春のつどいは3月2日(土)午後シェア奥沢で行います。第一部は講演で赤松理事による「奥沢の歴史と東地区街歩き報告」(仮称)、第二部はコンサートです。詳しくはチラシをご覧ください。

●土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ御協力をお願い致します。入会のお問い合わせやご連絡などは、右の欄にあります会の連絡先各位までどうぞ。

●現在当地区は世田谷区、奥沢交和会と共に、「界わい形成地区」指定に向けた風景づくりを軸とする街づくりの活動をしています。実現には多くの住民の方、特に若い世代の参加が必要です。負担の少ない活動で出来るので、当会でも奥沢交和会でも参加頂けるとありがたいです。

編集後記

今年の冬は寒くて雨の降らない日が続いていますが確実に春は近づいています。当会の内部事情で恐縮ですが、事務局長の緊急入院、事務局担当の鈴木の入院も重なり、スタッフ間のコミュニケーション不足で、新春地区祭りの運営に支障が生じました。ご多聞に漏れず当会スタッフも高齢化しており、日頃の情報共有の大切さを痛感しました

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢2-11-8 中村 修 3718-2549

世田谷区奥沢2-41-2 玉置 敬子 3724-1077

ホームページ:<http://tsuchimidori.net>

e-mail:info@tsuchimidori.net